ソニー教育財団×ぐうたら村 保育実践ゼミナール
第１期生の先生からのメッセージ

2022 年度に「保育実践ゼミナール」の第１期生として参加した先生から、ゼミナールを終えての感想や、その後の思い、活動についてメッセージをいただきました。

●遍照広尾保育園 宮西実也（ジョニー）先生

●むさしの森保育園 田畑貴子先生

●遍照広尾保育園 宮西実也（ジョニー）先生

オンライン講座での学び、そしてハヶ岳の自然の中での二日間…それは、自然の循環、多様な生き物との共存、共生、生き物同士の契約関係、そんな地球の原理原則、自然が持つ力強さや、神秘さ、人としての生き方、を考えるきっかけをくれた…

そして、全国から集まった 12 名の仲間との出会い。自分と向き合い、子どもと向き合う素晴らしい 12 名の仲間。私の心が動いた二日間…

ぐうたら村で、自然を歩き、落ち葉をかき分けた土の中に生きる小さな生き物たち、岩のコケの存在意義、滝から流れる水、ミツバチの役割…人間だけでない地球全体との関係の中で生き、共生関係を持っているんだ。そう感じられた。自然物を「モノ」としてではなくつながり中での「コト」として見る視点。言葉では上手く伝えきれないが、この世界で生きている人間は自然の一部であるという感覚をゴリさんから教えてもらった。

「いのち真ん中社会」の実現のとは？というメッセージをマメ先生は、私たちに投げかけてくれた。

この世界に生きる全ての「いのち」を主体とする考え方は、生きる豊かさ、生きる面白さを感じさせてくれる。

私は、自然を求め、つながろうとする子どもたちの姿を大事にしたい。

レイチェルカーソンは「私たちが住んでいる世界の喜び・感激・神秘など子どもと一緒に再発見し、感動を分かち合ってくれる大人が少なくとも一人、そばにいる必要がある」という言葉を残されている。そんなことが保育者の「存在意義」なのではないだろうか。

自然はいつもそばにいて、大切なのは立ち止まり、気づくこと。そんな小さな積み重ねが、子どもたちの科学する心の芽を育んでいくと信じて、持続可能な社会とこれからの保育を結んで考えていきたい。

森を歩いた後のワーク。
ゆったりとした時間の流れの中で、身体で感じた問いや気づきを咀嚼する時間の心地よさ…

●むさしの森保育園　田畑貴子先生

私はみつばちが大好きです。花の中で花粉まみれになっている姿や足に大きな花粉だんごをつけている姿に出会うと見とれてしまいます。

そんな大好きなみつばちがお腹を空かせないように、自宅でそして園でもみつばちが好きな花を育てるようになりました。園では初めはみつばちにビックリして怖がる先生や子どもがいましたが、月日と共に園庭にみつばちがいても怖がらないようになってきました。最近は「赤ちゃんみたいでかわいいね～」と言いながら水遊びそっちのけでみつばちに夢中になる子どももでてきました。自家採種を繰り返すことによりたくさんの花が咲きたくさんの種もでき、自園だけでなく他の園さんにもお裾分けができるようになりました。色々な園さんでみつばちが好きな花を育てたら、みつばちも喜んでくれるし先生達や子ども達がみつばちと仲良しになれたら嬉しい！以前から願っていたこの事が実現できそうになってきました。

その中で去年「保育実践ゼミナール」に参加しました。日本全国様々な園から先生達がぐうたら村に集まりました。集まってきた先生達は生命をとても大切にする愛情たっぷりの先生達でした。みつばちは持続可能な社会にとってとても大切な存在。その大切なみつばちと共に園で子どもの時から暮らせるような環境が出来たらとても素晴らしい！早速研修後 SNS でみつばちの好きな花を育ててみませんか？と呼びかけました。たくさんの先生達が賛同してくださり、とても嬉しかったです。その中の園さんが種から約半年間大切に育ててくれ、春に見事な花を咲かせてくれました。そして今は種採りをしてくれています。

小さな種が成長し花を咲かせる。その花に様々な生きものが訪れ、生命がにぎやかになっていく。花が無事一生を終えた後、最初よりもたくさんの種をプレゼントしてくれる。こうして季節の巡りと共にドンドン生命がにぎやかになっていく。その歓びあふれる生命の中にいる子ども達とおとな達。そしてこれからも今回の出会いのように自園を超え想いが一緒の園さん達と出会い、日本中のあちこちでみんな一緒にますます生命賑やかになっていくことを楽しみにしています！

花粉だんごをつけているみつばち

色々な味が楽しめるよう８種類の花の種をおくりました